

科目番号	45	科目名	薬学概論(Y)		
英 文 科 目 名	Introduction to Pharmacy (Y)				
大学・短期大学名	立命館			大学	
連 絡 先	〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1				
	TEL :	077-561-4972		FAX :	077-561-3935
担 当 教 員	土肥 寿文 ほか10名 (薬 学 部 教 授)				
実 施 方 法	対面授業		遠隔授業		対面・遠隔併用
教 室 名	フォレストハウス F203	会場	立命館大学BKC(びわこ・くさつ)キャンパス		
授 業 期 間	2026 年 4 月 7 日 (火) ~ 2026 年 7 月 14 日 (火) <毎週 火曜日> 1 時限・講時 9 : 00 ~ 10 : 35				
超過時の選考方法	出願票に記載の志望理由による選考				
成 績 評 価 方 法	定 期 試 験 (筆 記)				%
	レポート試験(期末)				%
	平常点(出席・授業態度)				100 %
	その他()				%
別 途 負 担 費 用	なし		あり()円		
そ の 他 特 記 事 項	+R授業対象科目。初回に+R授業を実施。詳細はmoodle+Rを参照。				
<講義概要・到達目標>					
【授業の概要と方法】					
薬学部薬学科に入学した学生に対する「導入科目」と位置づけ、6年間の学び全般について概説する。まず「薬学とは何か」、「薬学科6年制の意味するところ」、「薬学科での学びの全体像」について説明する。そして、「生命の尊厳」、「医療倫理」、「生命倫理」、「薬とは何か」、「どのように作用するか」、「薬は体内でどのような運命をたどるか」、「薬剤師の職務・責任、活動分野」、「薬害」、「医薬品の開発」、「チーム医療とコミュニケーション」、「医薬品開発」、「治験」、「社会保障と保険医療」、「薬剤師として求められる資質」などについて概説する。					
【到達目標】					
生命・医療に係る倫理観を身に付け、医療人としての感性を養い、様々な倫理的問題や倫理的状況において主体的に判断し、プロフェッショナルとして行動する。B-1-1-1)					
医療の担い手として、必要な知識・技能の修得に努め、自身の職業観を養い、生涯にわたり学び続ける価値観を形成する。B-1-1-3)					
薬剤師の社会的使命、法的責任、遵守すべき行動規範を理解し、患者・生活者の健康な生活を確保するという薬剤師の任務と責任を自覚する。B-1-3-1)					
薬剤師の任務を適正に遂行するために必要な法規を理解し、薬剤師の業務と関連付けて説明する。B-1-3-2)					
医薬品等による健康被害の重大性や被害者本人、家族等の全人的苦痛について理解し、薬害や医療事故防止に薬剤師が果たすべき役割や責任の重要性を説明する。B-1-3-3)					
患者・生活者の心理、立場、環境、状態に配慮し、非言語コミュニケーションを含めて適切なコミュニケーションを図り、良好な人間関係を構築する。B-2-1-1)					
医療、保健、介護、福祉に関わる他の専門職の職能について理解し、多職種連携における薬剤師の役割や専門性について説明する。B-2-2-1)					
社会保障制度の考え方とその枠組みを説明する。B-3-2-1)					
社会保障制度の下で提供される医療、介護、福祉の体制と仕組み及び関係する機関・職種の役割を理解し、薬剤師に求められる役割を説明する。B-3-2-2)					
医療保険財政が抱える課題について理解を深め、医療保険制度の維持・存続における行政、関係機関・職種、国民の役割を説明する。B-3-3-1)					
医薬品の創製から承認、市販後までのライフサイクルを理解し、医薬品の開発過程とその体制について説明する。B-4-1-1)					
医薬品開発に係る臨床研究について、法規制、制度、仕組みを説明する。B-4-1-2)					
医薬品開発を取り巻く国内外の動向を知り、医薬品の開発が世界レベルで進められており、国際的な状況が日本の医療に直接影響することを説明する。B-4-1-3)					
薬害の歴史とその社会的背景について理解を深め、薬害を発生させないための行動を認識し、責任を自覚する。B-4-2-3)					
医薬品及び医薬品原料としての生薬について、代表的な生薬の基原、特徴、用途、成分及び確認試験、品質評価法等の基本的事項を説明する。C-5-1-1)					

医薬品の化学構造の特徴と、標的となる身体の仕組みや分子との関連をもとに、薬の作用メカニズムや作用様式を説明する。D-1-1-2)

薬物の物理化学的性質と生体の構造及び機能から、生体内の薬物動態を説明する。D-4-1-1)

固形製剤、半固形製剤、液状製剤など、様々な製剤を作成するために必要な製剤材料の種類と物性と関連する基本的理論について説明する。D-5-1-1)

【成績評価方法】

レポート(3回)を提出する(75%)。

14回目に理解度を確認する試験または、これに替わるものを実施する(25%)。

【授業外学習の指示】

薬学部での学びの全体像を把握できるように講義を行う予定である。医療人である薬剤師等を目指す自覚を持ち、責任感を身につけ、また自らが問題点を探し(課題探求)、自らその解決策を考える(課題解決)態度を身につけるようにして欲しい。

【受講および研究に関するアドバイス】

健康、命、くすり、薬剤師、などに関する新聞やテレビなどの記事、ニュース、特集などは興味を持って読んでもらいたい。

【参考になるwwwページ】

薬学教育モデル・コアカリキュラムと本学薬学部科目との対応表

(https://ct.ritsumeai.ac.jp/ct/page_4654070c1728182_3759943156)

<授業スケジュール>

回	月日	テーマ・キーワード
1	4月7日	薬学とは何か、薬学の歴史、薬剤師の誕生と変遷、薬学科6年制の意味、薬学モデルコアカリ、薬学部での学びの全体像
2	4月14日	生命の尊厳、ヒューマニズム、人の誕生・成長・加齢・死の意味、生と死に関わる倫理的問題
3	4月21日	生命倫理、生命観の変遷、生命倫理の諸原則(自立尊重、無危害、善行、正義など)
4	4月28日	薬とは何か、薬の発見の歴史、薬物療法の歴史、天然生薬、合成医薬品、薬の化学的な性質
5	5月12日	薬の作用するプロセス、主作用と副作用、薬とリスク、薬の作用するプロセス、医薬品開発の標的となる代表的な生体分子
6	5月19日	医薬品開発のプロセス、医薬品の開発から承認まで、古典的な医薬品開発から先端的創薬へ
7	5月26日	医薬品の創製と治験、研究開発、治験、臨床研究と倫理(ヘルシンキ宣言等)
8	6月2日	体内での薬の運命(薬物動態)、体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)、薬物の投与方法(剤形、投与経路)
9	6月9日	薬剤師の活動分野、医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政、医薬品の適正使用
10	6月16日	薬剤師の職務と責任、薬剤師の倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定など) 医薬分業、チーム医療、地域社会との関わり、在宅医療と薬剤師、薬と法律
11	6月23日	薬害、代表的な薬害(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)、医療過誤・インシデント、薬物乱用防止、薬物依存
12	6月30日	チーム医療とコミュニケーション、各職種と行政の役割、リスクマネジメント、生涯学習
13	7月7日	社会保障と医療保険、社会保障制度、医療保険制度、地域医療、国民医療費の動向
14	7月14日	薬剤師と資質、総括、薬剤師として求められる資質、将来の薬剤師と薬学の役割、医療人としての姿勢、医療人としてのやりがい、総括

<教科書・参考書>

【教科書】

教科書は指定しないが、プリント(レジュメ)、参考資料を適宜配布する。

【参考書】

『薬学教室へようこそ』 二井将光 著 (講談社 978-4-06-257931-5 (ブルーバックス))

『薬学へのいざない』 鎌滝哲也 著 (東京化学同人 978-4-8079-1289-6)

【備考】

『薬学教室へようこそ』(二井将光著)は、事前に読むことを強く薦める。

個々のテーマに関する参考書等については随時、紹介する。